

ありまのみこ、みづかいた
有間皇子、自ら傷みて松が枝を結ぶ歌二首

一四一番

磐代いはしろの 浜松はままつが枝えを 引き結ひむすび ま幸さきくあらば
またかへりみむ

一四二番

家いへにあれば 筥けに盛もる飯いひを 草枕くさまくら 旅たびにしあれば
椎しひの葉はに盛もる